

平成 28 年度 自己評価結果公表シート

大谷幼稚園

1 本園の教育目標

「子どもたち一人ひとりにありがとうの心が育つ教育を目指す」

本園の教育目標の3つの柱は「宗教的情操教育」「創造の芽を伸ばす教育」「しつけのある子どもの教育」である。教育の根底には仏様の教えがあり、「いのちのつながり」「誕生の意味」「感謝の心」が挙げられる。自分のいのちが他のすべてのものにつながるいのちの循環の中にあることの気づきから教育が始まる。思いやりのある優しい子、創造性豊かな子、節度ある態度と協調性のある子を具体化していき、ありがとうのことばが習慣になることを大切に幼稚園教育実践を行ってきている。

教育目標達成のために、子ども一人ひとりの発達段階を踏まえ、子どもと向き合い子どもの気持ちを受け止め、良好な環境の中で心身の健康な発達を助長する。経験や活動を望ましい方向へ導き家庭・地域と連携を密にしていきとどいた指導を行う。

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した幼稚園評価の具体的な目標や計画

教育課程の内容を確認し、教職員の共通理解をはかり、設定した評価項目に沿って自己評価をすることによって、教職員自らが客観的に自園を見る目を養い、教育内容等の改善に主体的に取り組んでいく。長年、水曜日は11時半までの保育時間としてきたが、28年度は12時まで延长了。

3 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	取組状況
①(経営)子どもが興味をもち、夢中になって遊ぶことができる環境作りをする	B	園庭の木々の間を子どもたちが自由に動けるように、多様な場づくりを設定したりするよう努めている。
②(保育指導)子どもの主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活ができるようにする。	A	諸行事を行うにあたり子どもたちの意見やアイデアを保育に取り入れ、相談しながら思いを表現する楽しさを味わうようにしている。また自然物や廃材を使った造形活動を取り入れている。
③(生活指導)進んで気持ちの良いあいさつができるようにする。	A	いろいろな場にふさわしいあいさつができるよう常に教職員が手本となり、行動で示している。
④(安全・保健)幼児期に必要な生活習慣を身につける	B	基本的な生活習慣を身につけさせるため、日常保育で生活リズムの定着化を図るようにしている。

⑤(研修)研修を通して、資質の向上に努める	C	長期休業日等に研修会に参加し、成果を得ているが、職員の人数が限られ休暇をとっての参加は難しく、十分な研修ができていないといえない。
⑥(教育課程)より子どもの実態に即した教育課程・指導計画の作成に努める	C	子どもの実態をふまえ、新たな教育課程と指導計画等の作成に取り組みつつあるが系統だっているとはいえない面がある。
⑦(子育て支援)子育て相談体制の充実に努める	B	園内で相談内容の共有化に努め、幼稚園全体が機能的に対応できるようにしている。
⑧(宗教的行事)感謝する気持ちをもつようにする	A	感謝の言葉が習慣化するよう日常保育でその機会を多く持つようにしている。

A: 十分達成されている B: 達成されている C: 取り組まれているが、十分でない D: 取組が不十分である

4 具体的目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	教職員一人ひとりが幼稚園評価の主旨を理解し、自己点検及び自己評価におおよそ取り組むことができた。教育要領の改訂にあたり次年度からは新しい教育課程をもとに保育活動を振り返り、改善が図れるようにしたい。

A: 十分達成されている B: 達成されている C: 取り組まれているが、十分でない D: 取組が不十分である

5 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
① 資質向上のための充実した研修	運動会企画等の単発的な研修だけではなく年間を見とおした計画的な研修の工夫がより望ましい。
② 情報公開の方法	きめ細かい情報公開の方法を検討し、ホームページの内容改善やメールの幅広い活用について更に工夫する。毎日のブログは好評である。
③ 指導計画の編成	園の環境と子どもの実態に即した指導計画にするため、個々の教員の教育に対する思いをも指導計画内容に取り入れた編成に取り組む。
④自己点検及び自己評価	評価項目等については、教職員全体の共通理解をもとに設定し、個々達成の目標を立てる。

6 平成 27 年度学校(幼稚園)関係者の評価

総合評価

全体として順当な保育及び運営がなされていると認められる。また、評価項目個々について、教職員が自分を振り返りながら詳細に検討された様子がよくわかる。今後も前向きな教育内容になるよう取り組みを期待する。

具体的評価

	評価観点	評価結果
①	自己評価結果の内容について	教育目標に沿って8つの評価項目を設定し、一つ一つの評価項目について、教職員個々が達成状況を詳しく記述する評価方法と4段階による評定を行う方法をとるなど妥当性を確保するための望ましい工夫がされている。
②	自己評価結果を踏まえた今後の改善方策について	今後の取り組むべき課題を4項目挙げ、実態をみずえた具体的な取り組み方法を示すなど適切な改善策と方向性が示されている。
③	重点的に取り組むことが必要な目標や計画、評価項目について	教育目標に基づき、評価目標を設定することで、教職員自らが客観的に自園を見る目を養うように配慮するなど、適切に計画されている。
④	学校(幼稚園)運営の改善に向けた取り組みについて	学校運営の具体的内容である研修計画、教育課程の編成や教育指導計画の作成に取り組むべき内容が明確に示されている。

平成 28 年度 大谷幼稚園関係者評価委員会委員名簿

平成 28 年 6 月 1 日現在

名 前	所 属 等
川上 真次	富田林市立寺池台小学校長
井上美智子	大阪大谷大学教授、幼児教育実践センター長
溝端 秀紀	大谷幼稚園後援会会長